

# 乳がん患者さんを看護のちからで支えます

## ～乳がん看護認定看護師～

日本では乳がんにかかる人が増加傾向にあります。当センターでも、乳がんの手術数は年々増加し、年間150件を超えています。乳がん患者さんの多くは30歳代～60歳代の女性であり、母親として、キャリアを積んだ社会人としての重要な役割を担っています。乳がん治療は、手術療法、放射線療法、ホルモン療法、化学療法と多岐にわたっており、近年では乳房再建術や、遺伝性乳がん卵巣がん症候群に関する検査や治療が保険適応となるなど、患者さんにとっては、多くの情報から自分にあった治療を選択しなくてはならない時代となりました。

乳がん看護認定看護師は、日本看護協会の制度に基づいた看護分野のひとつです。乳がん患者さんのQOL(生活の質)の専門的サポート、患者さんの相談対応、また乳がん看護に携わる看護師教育が役割とされています。

乳がん看護認定看護師は2019年時点で全国に約370名、宮城県では7名登録されています。当センターには2名在籍しており、外来と病棟に各1名ずつ配置されています。外来では、診断後の心理的サポート、治療選択のサポート、療養支援等を行っています。また2016年より「乳がん看護外来」を開設し、医師から提示された治療選択に関わる意思決定支援や、抗がん剤治療中の生活の工夫に関するより個別な支援を行っています。個別面談の時間を設けることで、情報や気持ちの整理を行い支える場となっています。医師には言いにくい「ちょっとした困りごと」を一緒に解決できるように取り組んでいます。さらに、当センターでは「遺伝性乳がんの

情報提供」があり、認定遺伝カウンセラーと協同し支援を行っています。入院では、手術前後の看護を行います。中でも手術後の補整下着の支援は、個別に行うことで患者さんの生活に沿った指導、実践となるよう心がけています。

乳がん患者の大きな特徴は、罹患後のがんサバイバーとしての期間が長期間になるということです。乳がん看護認定看護師は、患者さんの長期にわたる闘病の期間を、患者さんとそのご家族に寄り添いながらサポートすることがその役割だと考えています。今後も乳がん患者さんを看護のちからで全力で支えていきたいと考えています。



向かって左 五安城美由子 右 船水まり子

# がんセンター 便り

宮城県立がんセンター地域医療連携室



## リキッドバイオプシー検査、導入しました!

がんゲノム医療センター長 安田 純



リキッドバイオプシー検査とは血液中の腫瘍由来DNA配列を読み取り、がん医療に関連する複数遺伝子の変化を検出する自由診療の検査です。保険診療の「がん遺伝子パネル検査」と異なり、20 mlの採血で同じ効果を狙います。全身の臓器をめぐる血液はがん組織も循環しますが、腫瘍組織から血中に漏れ出る微量のDNAを検出し、有効な薬剤等を探索します。既存検体が古いなど、パネル検査が実施できない患者さんにとっては大事な検査です。今回当院で導入したガーダント360検査は米国ではすでに10万件以上の実績があります。73個のがんに関連する遺伝子変異の有無や、マイクロサテライト不安定性<sup>1</sup>についても検出可能です。

リキッドバイオプシー検査は自由診療です。税込み41万9100円 + 説明費用1万1千円 合計43万100円かかります。他院の患者さんにつきましては主治医とご相談のうえ、当院セカンドオピニオン外来を受診していただきます。そこで、当院の専門医によって検査可能か否かを検討いたします。検査実施の前に「がんゲノム医療コーディネーター(CGMC)」による説明と同意取得の手続きがあります。通常は同意取得当日に採血を行います。血液を米国に送付する都合がありますので、採血だけ別日になることもあります。検体の検査会社への発送は支払いの確認後に実施しますので、採血当日に会計をお済ませください。

血液中ににじみ出るがん細胞由来のDNAが少ない場合、結果が得られないことがあります(返金できません)。また、「二次的所見」として遺伝性(近親者にも関係する)遺伝子の変化が見つかることがあります。当院には遺伝カウンセリング外来もありますので、遺伝カウンセリングを受診いただくことも可能です。

検査についてのご相談は当院のがん相談支援センターにて受け付けておりますし、パンフレットも用意しました。どうぞよろしくご検討ください。

<sup>1</sup> ゲノム中の単純繰り返し配列(CACACA...のように短いDNA配列が反復して出現する配列)ががん細胞の中できちんと複製されず不安定になること。不安定になると免疫チェックポイント阻害剤が有効な可能性が高まります。



### 交通案内

J 桜交 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用  
R 南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用  
仙南交 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用  
自家用車 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由  
県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

### 地域医療連携室のご案内

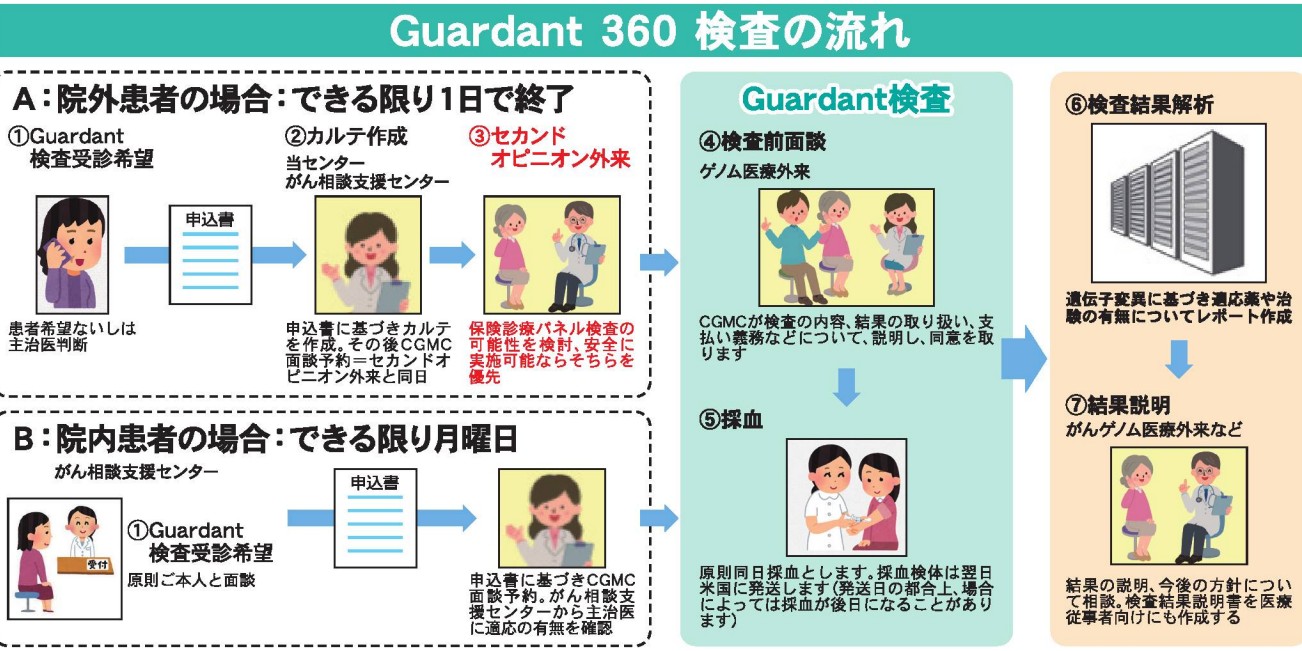
地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

受付 午前8時30分～午後5時15分  
OTEL (022) 381-5152(直通)  
(022) 384-3151(代) 内線123  
OFAX (022) 381-1169(地域医療連携室)

## 宮城県立がんセンター

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1  
電話(代表)(022)384-3151 FAX(企画総務課)(022)381-1168

□ゴママークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。



# セカンドオピニオンについて

当センターでは、事前の申込みによりセカンドオピニオンの提供を行います。

セカンドオピニオンとは、主治医以外の医師の意見を聞くことにより、患者さん御自身が治療方法を自己決定するのに役立てていただくものです。そのため、セカンドオピニオンでは、治療・検査等は行わず、患者さんがお持ちになった診療情報提供書・X線フィルム・CT・MRIなどの写真・画像データ等の資料をもとに当センターの専門医が意見を申し上げます。なお、セカンドオピニオンは、当センターでの治療や転院につながるものではありません。患者さん御本人または患者さんの意思を代行できる方(御家族等)で、がん又はその疑いのある方の相談に限りです。

費用については、保険診療適用外となり、30分まで11,000円。以降、30分毎に5,500円を加算(消費税込み)です。(資料を確認し報告書をお渡しするまでの時間となります。)

ご相談を希望の方は、下記にお電話いただき、**がん相談支援センター**とお伝えください。

- ・受付電話番号：022-384-3151 (代表)
- ・受付日：月曜日～金曜日(土、日・祝日及び年末・年始を除く)
- ・受付時間：午前8時30分～午後5時15分

詳しい内容につきましては当院ホームページ：<https://www.miyagi-pho.jp/mcc/>をご覧ください。

**消化器内科(肝臓)** **鈴木 眞一**

浦井祐太医師とともに肝疾患の診療を担当しております。主に、肝細胞癌の治療(TAE・RFA・PEI・化学療法)、肝発癌の1.5次予防としてのC型肝炎に対する経口抗ウイルス薬治療、慢性肝疾患に対する定期管理による肝細胞癌早期発見への取り組みを行っております。セカンドオピニオンに際しては、患者さん・家族の方々が診断・治療法などについて、迷われている点、不安に感じられている点、不明に思われている点などにお答えしつつ、当科としての治療をお示ししていければと考えております。

**消化器内科(膵臓)** **虹江 誠**

胆膵疾患、特に胆嚢癌、胆管癌、膵癌についてのセカンドオピニオンを担当しております。手術の可否に関する進捗度診断、手術困難と考えられる場合の治療法、抗がん剤変更時の選択、疼痛管理を含めた症状緩和治療など、診断や治療内容で悩んだり、不安に感じたりしている点について分かりやすく情報提供と説明をさせていただきます。いつでもご相談ください。

**消化器内科(上部消化管)** **及川 智之**

上部消化管(食道・胃・十二指腸)の疾患について診断・治療を行っております。また、のど(咽喉頭)の内視鏡治療も積極的に行っております。新しい治療としては、食道癌に対する内視鏡レーザー治療(光線力学療法; PDT)も施行しております。(化学)放射線療法後の局所遺残再発病変に適応がありますが、詳しくはご相談ください。セカンドオピニオンの際には、最新の情報などできる限りわかりやすく説明したいと考えております。

**消化器内科(下部消化管)** **日下 順**

大腸癌を中心に下部消化管疾患について診断、治療を担当しています。大腸癌の診断に関しては通常の内視鏡検査に加え、色素・拡大内視鏡検査、超音波内視鏡検査等の精密検査を用いてより正確な診断を心がけております。治療に関しては、内視鏡的粘膜切除術、粘膜下層剥離術を行っておりますが、外科的治療や化学療法については専門科と連携し、個々の患者様に最善と考えられる治療を提案・提供したいと考えています。セカンドオピニオンに際しては、診断や治療の適応、迷われている点、不安に感じている点、ご不明な点等について分かりやすくお答えできればと考えております。

**血液内科** **原崎 頼子**

血液内科のセカンドオピニオンを担当しています。最近悪性リンパ腫や多発性骨髄腫など血液悪性疾患では次々と新薬が登場し、治療が複雑化しています。血液内科専門医が5人いれば、5人とも違うレジメンを選択する、ということもあり得る状態となっています。患者さん、ご家族が納得して治療方法を選択する一助にセカンドオピニオンをご活用ください。

**腫瘍内科** **村川 康子**

当科では、胃癌・大腸癌・膵臓癌などの消化器癌に加え、原発不明癌などに関するセカンドオピニオンを担当しております。現在、分子標的薬に加え免疫チェックポイント阻害薬などの新規抗がん剤の登場や、ネットを通じて得られる過剰な医療情報により、治療選択に戸惑う患者さんやそのご家族が多くなっています。そこで、まず種々の疾患における治療ガイドラインを一つの治療指標として説明させていただきます。次に患者さんが何を大切にされておられるかをお聞きしながら、体調や医療環境などを勘案したうえで、緩和治療も含めた治療選択を提示させて頂いております。

**呼吸器内科** **福原 達朗**

肺がんを中心とした胸部腫瘍の診断や内科的治療について担当しています。肺がんの治療は近年急激に発展しており、基準となるガイドラインも年々更新されています。セカンドオピニオンを希望される患者さんの多くは、すでにガイドラインに則った積極的治療を経験されています。そこから先の診療には、正解は無いことが多く、判断に迷っておられる患者さんには、私たちの経験などを生かして少しでもお役に立てる回答ができるよう努めています。

**呼吸器外科** **阿部 二郎**

当科では肺がんに対して、手術を柱にして抗がん剤や放射線を含めた総合的な治療を担当しています。また、肺がんが再発した場合の治療や緩和的な治療も行っており、手術を含めた総合的な肺がん治療に関する助言が可能です。例えば、肺がんが進行してしまっても手術できるかどうかぎりぎりの症例でも、呼吸器内科と連携し積極的に切除の可能性を追求しています。そのほか、大腸がん、腎臓がん、乳がん、子宮がんなどの他の臓器で発生したがんの肺転移に対する治療も担当しており、手術したほうが良いか、あるいはしないほうが良いかという判断を、豊富な経験から助言させていただきます。ご自身の治療内容について迷われている方は是非一度ご相談ください。

**乳腺外科** **佐藤 章子**

当院では最新のエビデンスに則った標準的な乳癌治療に加えて、遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する乳房・卵巣予防切除や形成外科との合同手術、パネル検査など最先端の診療体制が整っています。セカンドオピニオン外来では幅広い選択肢の中からメリット・デメリットを共有し患者さんの希望に沿った納得のいく最良の治療が選択できるように努めております。

**消化器外科(上部消化管)** **藤谷 恒明**

今までにセカンドオピニオンをお受けにいられた患者・家族の皆様は、その時点での主治医からある程度の説明を受けている方が大部分でしたので、実際に面会する際には既に説明された内容について再確認を一緒に行うような場合が多いと思っています。主に胃がんの手術療法を担当しておりますが、胃がんに限らず上部消化管等の「がん」の治療全般についても可能な範囲でご説明しておりますので、ご遠慮なさらずお問い合わせください。

**消化器外科(下部消化管)** **三浦 康**

大腸がんの外科治療、化学療法、放射線治療などの近年の進展はめざましく、専門医にとって的確な判断が容易ではないケースを経験します。外科治療および術式の選択、手術後の補助化学療法を選択など未解決な課題も存在し、全国規模の臨床試験が続けられているのが現状です。宮城県立がんセンターはがん治療の各分野のエキスパートからなり、大腸がんの外科治療のセカンドオピニオンを必要とする方たちにお答えしていきたいと考えております。

**消化器外科(肝胆膵)** **岩指 元**

肝胆膵外科のセカンドオピニオン外来を担当させていただきます。肝胆膵の臓器は、周辺組織(血管(動脈や静脈・門脈)や胆管などの脈管・胃・十二指腸・小腸・副腎・脾臓などの臓器)との関係が複雑であり、手術も大掛かりで体への負担も大きくなることが多いため、手術をして癒が治ることに貢献できるか、さらに患者さんの生活の質を改善できるか、が最も問題と考えています。また手術をする場合でも、癌を完全に切り取る(根治性)と、残った臓器がきちんと動いて体の機能を失わないこと(臓器機能の温存)とのバランスを取りながら、治療方針を決定しています。

**整形外科** **保坂 正美**

骨腫瘍、軟部腫瘍を担当しております。悪性のうち原発性腫瘍は肉腫が多く、診断・治療に難渋することが少なくありません。また良性でも治療方針に悩む場合がしばしばあります。セカンドオピニオンについては悪性(肉腫、骨転移がん)のみならず、良性腫瘍についても積極的にご相談に応じております。納得いく説明を心がけており、受診後、安心してお帰りいただければと思います。日々診療しております。

**脳神経外科** **山下 洋二**

脳腫瘍に関するセカンドオピニオン外来を担当しています。悪性の脳腫瘍が主で、神経膠腫(グリオーマ)、中枢神経系原発性リンパ腫(脳悪性リンパ腫)、転移性脳腫瘍などに対応します。診断や治療に関する不明な点につき丁寧に説明します。

**頭頸部外科** **浅田 行紀**

頭頸部がんの治療では生命予後が最も重要ですが、併せて頭頸部機能の温存(摂食・嚥下、呼吸・構音、味覚・嗅覚などの機能と顔貌)も重要であり、当科での治療方針としてこれら両立を高いレベルで行うことを目標としています。豊富な症例経験があり、特に喉頭温存手術や超選択的動注化学放射線療法は全国トップレベルの水準にあります。各々の患者さんの状況に応じた治療法についてコメントできると思います。

**頭頸部内科** **山崎 知子**

頭頸部がん、甲状腺がんのセカンドオピニオンを対応しております。薬剤の開発は目まぐるしく進んでおり、当院でも標準療法のみならず、新規治療や、光免疫療法など、様々な治療が行われております。各々の患者さんの状況に応じた治療方針について説明できるかと思っておりますので、ぜひご相談ください。

**婦人科** **山田 秀和**

セカンドオピニオンをする際に以下の点を心がけています。①患者さんの求めている情報を正確に把握すること。②婦人科がんの治療ガイドラインなどをもとに標準的な治療を提示すること。③自分の経験や新しい知識などガイドラインに書いていないことも必要に応じて伝えること。当院は婦人科治療においては、卵巣癌・子宮がんとも宮城県内では最も症例数の多い病院の一つです。安心してセカンドオピニオンを活用してください。

**泌尿器科** **川村 貞文**

前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣癌、陰茎癌など泌尿器癌についてのセカンドオピニオンを担当しています。近年医療機器はめざましく進歩し新薬は次々と登場していますが、そのため泌尿器癌の診断・治療も目まぐるしく変化し、複雑化してきています。様々な情報に翻弄されて右往左往してしまうことも少なくありません。そこでup-to-dateな情報とエビデンスに基づきながら分かりやすく説明いたします。

**放射線治療科** **久保園 正樹**

放射線治療は様々な癌の根治治療や局所制御に用いられます。照射方法も通常法の他にIMRT(強度変調放射線治療)、SRT(定位照射)などの高精度外部照射、小線源治療、当施設にはありませんが粒子線治療など多岐に渡ります。たとえ癌が治らなくても、癌による疼痛や出血などを緩和する目的にも用います。主治医の先生が御存知で無い場合もあると思いますのでお気軽にお問い合わせください。県内の他の放射線治療施設への問い合わせも垣根無く可能です。

